

「ベトナム経済への懸念（ウッドショック、国際物流コスト上昇）」

石川 幸

＜ベトナム経済、上半期の好調から悪化直面＞

ベトナムでもコロナ禍が続く中、ベトナム統計総局によると、2021 年上半期の成長率は前年同期比で+5.6%とベトナム経済の好調さを維持しました。しかしながら、7 月下旬から感染拡大防止の措置が徐々に強化され、地区を跨ぐ行動制限や外出禁止、その結果、工場の操業停止などの悪影響が、今後の数値に反映されると思われます。

ポイントは、2021 年第3四半期の悪化が一時的に留まるのか否か、2021 年第4四半期には経済再開に伴う成長再開につながっているのかという点です。

また、2021 年度通年で経済成長率については、以前の目標値プラス 6.5%から 3.5～4.0%への下方修正検討が報じられています。個人的な見解ですが、ベトナム経済全般における中長期的な経済成長力、成長回復力については楽観視しています。

＜米国インフレ懸念、ウッドショックの伝播＞

ベトナム輸出相手国の1位である米国では、その間に、インフレ懸念、金融政策の変更予兆など、2021 年経済再開が進展している様子が伺えますが、良くも悪くも、米国インフレ懸念が、全世界に拡散・伝播するような兆候は今のところ聞こえてきません。

一方、伝播したものは“ウッドショック”です。コロナ禍の2020 年夏頃から始まった木材価格の急騰ですが、一因は米国住宅供給の需要が強く、高止まる中での木材供給の不足から起きており、一時的な影響という見解もありました。しかしながら、2021 年現在でも世界的な価格上昇・高止まりが続いており、輸入木材価格の上昇は、日本やベトナムにも伝播しています。ベトナム南部では、家具・寝具・棚・ウッドチップなどの木材加工業を中心に、木材単価上昇の悪影響が起きています。販売先への価格転嫁ができない、資材確保の困難、資金手当てに加えて、コロナ規制での工場操業リスクなどが加わり、零細ローカル加工業者では工場閉鎖や廃業も散見されます。輸入木材のみならず、ベトナム国内の木材価格でも、平均で少なくとも10～30%上昇していると言われています。

＜国際物流コストの上昇＞

また、今後も影響が続くと思われるのは、物流コスト、特に国際物流コストです。2020 年秋以降に起きたコンテナ不足と滞留遅延、コ

ロナ対策費用、関税手続・倉庫問題等々から国際輸送コストの高騰が続いています。予約さえ取れない便もありますし、必要以上に日数がかかることで実費が増大しています。

ベトナム水産輸出加工協会（VASEP）の輸出事例ですが、ホーチミンからロサンゼルス（40 フィートコンテナ（スポット価格）で、コロナ前の2020 年初頭で1,800USドルだったものが、2021 年7月ではプラス6,200USドルの8,000USドル（増加率で4倍超！）となったことが報告されています。

2021 年9月時点で、この価格はさらに上がり、1 万 USD 台までになっています。コンテナ不足は解消されつつありますが、国際輸送コストは高止まりが続き、中国からの欧米向けについてはさらに高止まりしているようです。

ベトナム進出日系企業の多くが、現状も加工産業の色彩が濃いいため、特に国際物流費上昇の悪影響について、取引時期の調整、個別取引採算の管理強化など今後も注意を払うべき局面に差し掛かかっています。

＜日本人ビジネスパーソンの訪越について＞

ベトナムの社会的隔離規制は継続していますが、ワクチン接種2回完了者への緩和措置として、ベトナム入国時、指定隔離施設での7日間隔離、その後の自宅等での7日間隔離：「7日+7日隔離期間」が明示されました。搭乗前PCR 検査での陰性証明書は引き続き必須です。なお、観光ビザなどは停止中で、ベトナム側での個別許可制に変更はありません。

上記のようにワクチン接種2回完了者の強制隔離期間が短縮された関係で、渡航準備に関する問い合わせが増えてきています。また、在ホーチミンの邦人を対象としたワクチン接種が175 軍医病院にて開始され、一時退避する動きにも抑制が見られます。

現状、ベトナムへの渡航時期（再入国も同じ）の3ヶ月前から、実務的なベトナム入国の準備を開始すべきである点に、引き続きご留意ください。なお、入国地域によって許可条件が異なることがありますので、最新情報にもご留意ください。